

縣本部派の指導下に置くべく昭和六年秋頃より兩組合幹部と連絡を保ち私に交渉を開始したのであるが、之と共に全農縣本部よりも縣聯組織を築き上げた事もあり、かくて昭和七年に入り漸次其の機運に向ひ三月十七日第一回準備會、四月二日第二回を開催、越へて五月杉山元次郎氏の來縣に際し同月十一日第三回準備會を開催同氏を中心に兩組合幹部、出原春次、堂本爲廣（勞大黨縣議）等集合し結成機運急轉し十月中旬縣聯結成大會開催に決定し、其後數回の準備會を経て遂に十月十七日全農縣聯の創立を見るに至つたのである。

而し其時政黨支持の件に就ては同大會に於て、  
 ◎本大會は全國勞農大衆黨並に舊社會民衆黨福岡縣聯合會の合同を促進し合同完成の上社會大衆黨支部福岡縣聯合會の支持團體たらんことを決議す。

とて條件付社大黨支持を決定したのである。

次に結成後に於ける本組合の活動は未だ特に舉ぐべき事項なしと雖も、千葉縣下の實業醫藥組合の結成續に鑑みるとこゝろありて、京都郡行橋町支部に於て醫藥組合を計劃し十二月末日より事業を開始してゐる。

而して縣聯結成前ではあるが、五月のメーデーに當り北豊前農民組合員約三〇〇名が小倉市にて示威運動に参加したことは本縣農民運動史上特筆すべき事柄である。

0、日農九州同盟會

大正十五年七月日農福岡縣聯合會を脱退したる高崎正戸等一派は全日本農民組合同盟九州同盟會を組織し機能なる運動を辿り、昭和三年七月全日本農民組合の結成と共に同盟會九州同盟會と改稱し稻富後人主宰の下に専ら組合の擴大強化を圖り、越へて昭和六年一月日本農民組合の成立に従